



Autumn Special Exhibition

# UTAMARO AND HIS ERA

THE UKIYO-E IN THE GOLDEN AGE

PORTRAITS OF BEAUTIFUL WOMEN AND ACTORS

Exhibition dates : October 8th (Thu) ▶ December 6th (Sun)



# 歌麿とその時代

## 黄金期の浮世絵 美人画と役者絵

会期 2020 **10.8(木) ▶ 12.6(日)** 前期 | 10.8(木) ▶ 11.8(日) 後期 | 11.12(木) ▶ 12.6(日) ※前・後期全点作品入れ替え

中山道広重美術館  
Hiroshige Museum of Art, Ena

毎週金曜日は観覧無料 フリーフライデー  
〈スポンサー〉(株)銀の森コーポレーション、  
木曽路物産(株)、(株)サラダコスモ

Hiroshige Museum of Art, Ena Museum News 2020Autumn

## 歌麿とその弟子たち



## 喜多川歌麿 UTAMARO

主に寛政期(1789-1801)に活躍した絵師。鳥山石燕(江戸中期の狩野派絵師)に師事する。版元・蔦屋重三郎と組み、美人大首絵で人気を博した。寛政末期に鳥居清長(1752-1815)が美人画から手を引いた後は、名実共にこの分野の第一人者となる。晩年は彼の作品が幕府の禁を犯し手鎖の刑に処され、失意のうちに没した。蔦屋重三郎の下で出版した天明期の絵入り狂歌本『画本虫撰』、『潮干のつと』もよく知られている。

〈その他の絵師〉 喜多川秀麿/喜多川菊麿など

左: 喜多川歌麿「松葉楼粧ひ 実を通す風情」  
寛政11年頃(1799頃)/ 錦絵大判  
右: 喜多川歌麿「青楼美人」  
寛政4~5年頃(1792-93頃)/ 錦絵大判

## 栄之とその門人



## 鳥文斎栄之 EISHI

直参旗本出身の浮世絵師。同時代に活躍した歌麿とは好対照の、優美ですらりとした八頭身の美女を描き人気を得た。

〈その他の絵師〉 鳥高斎栄昌/栄鳥など

左: 鳥文斎栄之「まつもとと櫻料亭内」  
寛政3~4年頃(1791-92頃)/ 錦絵大判三枚続  
右: 栄鳥「青楼美人合 五明楼文越」  
寛政期(1789-1801頃)/ 錦絵大判

美人画の流れ  
黄金期の浮世絵  
天明・寛政期を中心として

## 鳥居清長 KIYONAGA

役者絵を得意とする鳥居派にあって、清長自身は八頭身の健康的な美人像で人気を博す。歌麿ら後代の絵師にも影響を与えた。

〈その他の絵師〉 窪 俊満/北尾政演など

左: 鳥居清長「当世遊里美人合 辰巳艶」  
天明2~4年(1782-84)/ 錦絵大判  
右: 窪 俊満「料亭夜の景 堀の内外」  
天明後期(1788頃)/ 錦絵大判三枚続



## 歌麿とその時代

## 黄金期の浮世絵 美人画と役者絵

浮世絵の祖といわれる菱川師宣が、版本から挿絵の部分に独立させ、一枚摺りの木版画により「浮世絵」を確立させたのは延宝期(1673-81)のことです。当初は墨一色で摺られていた「墨摺絵」が「紅絵」、「紅摺絵」などを経て、明和年間(1764-72)には多色摺木版画としての「錦絵」が完成します。錦絵の鮮やかな色彩と繊細な彫り摺りの技術は、現代の私たちをも魅了してやみません。

そんな錦絵の黄金期と呼ばれる時代があります。それは、喜多川歌麿(1753?-1806)や東洲斎写楽(生没年不詳)らが活躍した天明・寛政期(1781-1801)です。この時期は、主に徳川幕府11代将軍・徳川家斉の治世。家斉は天明7年(1787)に15歳で将軍職に就き、その後天保8年(1837)に退位するまで50年間、その職にあり続けました。その間に元号は天明、寛政、享和、文化、文政、天保と移り変わり、また退位後も大御所として政治の実権を握っていたため、家斉の権勢は彼の没す

会期  
2020

10.8(木) ▶ 12.6(日)

前期 | 10.8(木) ▶ 11.8(日)

後期 | 11.12(木) ▶ 12.6(日)

前・後期全点作品入れ替え

る天保12年(1841)まで続くこととなります。

天明・寛政期は、田沼時代といわれる重商主義政策が敷かれた宝暦-天明期(1751-89)と、老中・松平定信による緊縮財政と風紀肅清、農村復興等に重点を置いた幕政改革が行われた寛政期(1789-1801)にまたがる時代です。そのような時世にあって、浮世絵の黄金期を支えた絵師の一人が喜多川歌麿でした。彼は版元・蔦屋重三郎(1750-97)と組み、特に寛政4-5年(1792-93)には《婦女人相十品》、《婦人相学十脉》といった美人大首絵で次々と当たりを取ります。また、彫り摺りの多様な表現技法を生み出すなど、名実共にこの時期の浮世絵界をリードする存在でした。

ところが、歌麿の活躍と時を同じくして断行された松平定信による寛政の改革は、彼の人生に大きな影を落とします。文化元年(1804)、豊臣秀吉の醍醐の花見を題材にした錦絵が幕府の禁に触れ手鎖の刑に処されると、その僅か2年後、歌麿

第四章

美人画の流れ  
爛熟の化政文化  
文化・文政期を中心として



溪斎英泉 EISEN

菊川英山の門人。胴長猫背であく強い妖艶な美人画を多く描く。また戯作者、文筆家としても活躍する。

〈その他の絵師〉 菊川英山/歌川国芳など

左：溪斎英泉「美艶仙女香 潮くさき美人やふぬの朝霞」  
文政6年頃(1823頃)/錦絵大判  
右：歌川広重「東都名所 両国夕すずみ」  
天保2～安政5年(1831-1858)/錦絵大判

第五章

役者絵



勝川春章 SHUNSHO

宮川長春晩年の門人・宮川春水に師事する。勝川派の創始者であり、役者似顔絵で評判を取る。錦絵の草創期に活躍し、鈴木春信や一筆斎文調らと共に錦絵の発展に寄与した。春章以降、役者絵における似顔の手法は後世の主流となり、彼と入れ替わるように登場した東洲斎写楽は、約10ヶ月という短期間に145点もの作品を残した。しかしあまりに真に迫った画風は役者や扇屋から批判の対象となり、デビューの翌年には画壇から姿を消すこととなる。

〈その他の絵師〉 勝川春好/歌川豊国など

左：勝川春章「初世中村仲蔵の鎮西八郎為朝と五世市川團十郎の弥平兵衛宗清」  
安永9年(1780)/錦絵間判  
右：東洲斎写楽「中島和田右衛門のぼうだら長左衛門と中村此蔵の船宿かな川の権」  
寛政6年(1794)/錦絵大判

第六章

肉筆画



菊川英山 EIZAN

歌麿亡き後の美人画界をけん引した中興の祖。師でもあった父・英二は狩野派門人で造花業を営んでおり、その後四条派や北斎流の画法も習得する。はじめ歌麿風の美人画をよくしたが、後に柔和で儂げな印象の独自の美人画像を確立し、女性の全身像を描き人気を得た。

〈その他の絵師〉 二代喜多川歌麿/歌川国直など

左：菊川英山「立美人」/紙本  
中：喜多川藤麿「見立六歌仙」/享和～文化期頃(1801-1818頃)/絹本  
右：喜多川式麿「福祿寿と遊女」/絹本

- 観覧料 大人/820円(660円) ( )内は20名以上の団体料金  
▲18歳以下無料、障がい者手帳をお持ちの方と付き添いの方1名は無料。
- 開館時間 午前9時30分～午後5時(入館は午後4時30分まで)
- 休館日 月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く) ▲11.23(月・祝)は開館いたします。  
※11.4(水)、24(火)は祝翌日のため、11.9(月)～11(水)は展示替えのため休館いたします。

は文化3年(1806)に没してしまいます。しかし、歌麿が作り上げた美人画の系譜は、彼に私淑した絵師や弟子たちへと受け継がれていきます。また、移りゆく時代性を反映した歌川派を中心とする美人画の絵師たちが次代の潮流を作るなど、美人画はいつの時代も人々の関心のただ中にありました。

本展は6章構成となっており、初代喜多川歌麿とその流れを汲む弟子たち、また歌麿に比肩する美人画の絵師である鳥文斎栄之とその門人たち、歌麿のその後の時代を生き文化・文政時代の絵師たち、さらには浮世絵界において美人画と双璧を成す一大ジャンル・役者絵を得手とした絵師たちの作品群も概観します。政治に翻弄されつつも、次々と新機軸を打ち出し、その後の錦絵の隆盛を支えた絵師たちの絢爛豪華な作品をお楽しみください。

- 【関連イベント】 ※無料、ただし観覧料は必要です。
- 学芸員による作品ガイド  
日時 前期：10.11(日) 後期：11.15(日)  
各日午前10時30分～(30分～1時間程度)  
場所：展示室1、2(1、2F)
- 主催：恵那市、恵那市教育委員会、(公財)中山道広重美術館  
監修：中右 瑛(国際浮世絵学会常任理事)  
企画協力：E.M.I.ネットワーク

- [ その他の出品予定作品 ]
- ・喜多川歌麿「山姥と金太郎」/寛政後期～享和期(1800-1804)/錦絵大判
  - ・喜多川秀麿「高名金花池」/享和～文化期(1801-1818)/錦絵大判
  - ・鳥高齋栄昌「吉原俄」/寛政6～9年頃(1794-97頃)/錦絵大判
  - ・鳥居清長「隅田川船遊び」/天明期(1781-89)/錦絵大判三枚続
  - ・北尾政演「金澤八景 州崎の晴嵐」/安永9年頃(1780頃)/錦絵中判
  - ・歌川豊国「品川料亭の図」/錦絵大判三枚続
  - ・菊川英山「手水鉢の母子」/文化中期(1810頃)/掛物絵
  - ・溪斎英泉「浮世風俗美女競」/文政7年頃(1824頃)/錦絵大判
  - ・歌川国芳「梅の魁」/文政期以降(1818以降)/錦絵大判三枚続
  - ・勝川春好「市江 四世市川団蔵の暫」/明和後期～天明期(1771-1789)/錦絵細判
  - ・鳥文斎栄之「小野小町雨乞」/寛政後期以降(1801頃以降)/絹本
  - ・宮川春水「花魁」/紙本
- ※紹介作品はすべて中右コレクション

Museum Shop News

ミュージアムショップからのお知らせ

浮世絵グッズ取り揃え！

ミュージアムショップでは秋季特別企画展に合わせて、展覧会関連グッズを販売いたします。図録をはじめ、絵葉書、一筆メモ、マグネット、チャームストラップ、メッセージカードなど各種取り揃えております。すぐに飾れる額付き複製画セットや、マット付き額絵もございます。いずれも展覧会会期に合わせた期間限定販売となりますので、この機会をお見逃しなく！

その他、美術館オリジナルグッズやかわいい和小物も普段通りに取り揃えてお待ちしております。ご来館の際には、ぜひミュージアムショップにお立ち寄りください。



● 絵葉書 各種 110円

● 展覧会図録 2,200円



● メールフレーム 各種 550円



● メッセージカード 各種 300円



● 一筆メモ 各種 300円



● 美人画(額セット) 各種 4,180円

〈ご来館の皆さまへお願い〉

ご来館の際はあらかじめホームページ、SNS、お電話などで開館情報をご確認の上、ご来館ください。

入館時は引き続き、手指消毒、マスク着用、検温、連絡先の記入など、新型コロナウイルス感染予防対策にご協力をお願いいたします。また、展示室内や浮世絵ナビルームでは、2メートルを目安に他のお客さまと距離を取って、鑑賞、体験をしていただきますようお願いいたします。



展覧会案内

2020.12-2021.3

企画展

展示室1

二代広重 -受け継がれた広重イズム-

12.10(木)~2021年1.17(日)



歌川広重(二代)《諸国名所百景》「対州 海岸」

初代広重の没後、門人たちがその名を襲名しましたが、師の画風を最も忠実に受け継いでいたのは、二代広重といえるでしょう。彼が作品を手掛けていた頃は、まさに江戸と明治の狭間でした。移り変わる時代を生きた絵師・二代広重が受け継いだ広重イズムをご覧ください。



企画展

展示室1

五十三次名所図会

1.21(木)~2.23(火・祝)



歌川広重《五十三次名所図会》「四 神奈川 台の茶屋海上見はらし」

広重は生涯に二十余の東海道をテーマとした揃物を制作しましたが、《五十三次名所図会》(通称縦絵東海道)は、唯一画面を縦に使うって描かれた作品です。俯瞰(ふかん)的な構図を多く用いた、まさに名所図会を思わせる広重晩年の大作をご覧ください。



企画展

展示室1

双筆五十三次 -新規収蔵品お披露目-

2.27(土)~3.28(日)



三代豊国と広重の合筆《双筆五十三次》が2019年度、当館の新規収蔵品となりました。本揃物は東海道の各宿場を背景にして、前景に大きく人物を描いているのが特徴です。宿場風景は広重が、人物は三代豊国が手掛けました。幕末を代表する絵師たちの豪華なコラボレーションをお楽しみください。

三代歌川豊国・歌川広重《双筆五十三次》「日本橋」



中山道広重美術館

Hiroshige Museum of Art, Ena

〒509-7201 岐阜県恵那市大井町176-1  
TEL(0573)20-0522 FAX(0573)25-0322  
<https://hiroshige-ena.jp>

\*JR 中央線恵那駅から直進徒歩約5分

\*中央自動車道恵那インターから約5分

